

ある日の稽古場の”記憶“



(ト書き)ある日の朝、「Re・北九州の記憶」の5人の作家たちがやつてくる。昨夜の宴会話が盛り上がりそうになつた時に演出の内藤裕敬氏が登場。

鵜飼 ジャー、はじめようか。

穴迫 (お願ひしまーす、と頭をさげつつ)

5年目なんですよ、僕と鵜飼さんは。

鵜飼 最初の頃は、個人的なことを喋つてもらつまでに時間がかかっていたんですが、最近は結構、個人的な記憶を話してもらえることが多くなりましたね。何でしよう? 私たちのスキルが上がつた?

(全員、苦笑)



穴迫

穴迫 過去の戦争や時代の話より、その人が今、自分のたくさんの記憶の中から最もサイレントな個人史を選んで話している感じがしますよね。より狭まつた個人の世界に集中すればするほど、見えてくる全体像や普遍性もあつたり…。最近は、”記憶”といふ言葉が「過去を掘り起こす」とか

渡辺 僕は今回が初めてで、取材の時にどのくらい突つ込んでいいのか全く分からなかつたんです。で、とりあえず全部喋つてもらおうかなー、と止めなかつたら2時間ずっと喋りっぱなしで(笑)

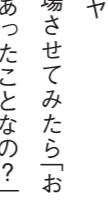
穴迫

渡辺 僕は最初に内藤さんに「お前、クレイジーダゾ」って言われた(笑)。喫茶店の話を聴いたんですけど、その喫茶店を外側から見た



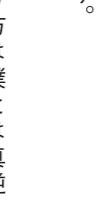
渡辺

渡辺 僕は最初に内藤さんに「お前、クレイジーダゾ」って言われた(笑)。喫茶店の話を聴いたんですけど、その喫茶店を外側から見た



渡辺

渡辺 僕は最初に内藤さんに「お前、クレイジーダゾ」って言われた(笑)。喫茶店の話を聴いたんですけど、その喫茶店を外側から見た



渡辺

大迫 そうか。そのやり方は僕とは真逆だつたかも。取材してると、皆さん自分の人生の面白かったことや伝えたいことがいっぱいあって、僕はそういうところに共感しながら、その人が大切に持つている記憶や歴史を、どうすれば演劇という手法で言祝げるだろう? と思ってました。

鵜飼 優しいもん、大迫くん。聞き方も寄り添つてるつて感じ。

大迫 話してもらつた記憶は、もしかしたら歳月で改变されてるところもある

「資料にも残つてない記憶」という定義から、どんどん拡がつて変容している気がする。

寺田 僕は書くのは3回目、かな。最初の頃は「失礼のないよう」…と思いつけていましたが、だんだん慣れてくるというか。話はどんどん膨らんでいくし、膨らみ過ぎればそこからどう戻していくかと考へるようにもなつた

寺田 (全員、苦笑)

寺田 僕は書くのは3回目、かな。最初の頃は「失礼のないよう」…と思いつけていましたが、だんだん慣れてくるというか。話はどんどん膨らんでいくし、膨らみ過ぎればそこからどう戻していくかと考へるようにもなつた



寺田

寺田 僕は書くのは3回目、かな。最初の頃は「失礼のないよう」…と思いつけていましたが、だんだん慣れてくるというか。話はどんどん膨らんでいくし、膨らみ過ぎればそこからどう戻していくかと考へるようにもなつた

寺田 (全員、爆笑)

寺田 僕も今回初めてだつたんですけど、どこをどう膨らませ、どう創作するのが発見でした。興味深かつたのは、インタビューに協力してくれた方々の記録ぶり。いろんな資料を用意してたり、地図まで書いてくれたり、中には自分がインタビューされたところを映像に撮る人も。”記憶”という消えていくモノを、ちゃんと”記録”しようとしていて、その一つに今回の戯曲もなるんでしょう。

寺田 うね。

寺田 僕は今回が初めてで、取材の時にどのくらい突つ込んでいいのか全く分からなかつたんです。で、とりあえず全部喋つてもらおうかなー、と止めなかつたら2時間ずっと喋りっぱなしで(笑)

寺田 5年やつてきて思うのは、一つは取材に行くことの大切さと大変さ。もう一つは、そこで分けてもらった”記憶”を持ち帰った作家の成長。作家はみんなそれぞれ個性豊かだから、出てくる戯曲を読むと「よくもまあ、これだけ違うねえ」といつも思う。同じ人の話を聞いても、自分の心のどこかが動く瞬間というか、セントン

寺田 うね。

寺田 僕も同じ方に伺つたんですが、2時間半? え、3時間くらい? 長い時間と一緒に過ごして、同じ話を聴いたはずなのに、出来上がつた戯曲は全く別物だったという(笑)

寺田 僕は「あ、これ戯曲にしたら面白い

寺田 5年やつてきて思うのは、一つは取材に行くことの大切さと大変さ。もう一つは、そこで分けてもらった”記憶”を持ち帰った作家の成長。作家はみんなそれぞれ個性豊かだから、出てくる戯曲を読むと「よくもまあ、これだけ違うねえ」といつも思う。同じ人の話を聞いても、自分の心のどこかが動く瞬間というか、セントン

寺田 うね。

寺田 5年やつてきて思うのは、一つは取材に行くことの大切さと大変さ。もう一つは、そこで分けてもらった”記憶”を持ち帰った作家の成長。作家はみんなそれぞれ個性豊かだから、出てくる戯曲を読むと「よくもまあ、これだけ違うねえ」といつも思う。同じ人の話を聞いても、自分の心のどこかが動く瞬間というか、セントン

寺田 うね。

寺田 僕は「あ、これ戯曲にしたら面白い

寺田 5年やつてきて思うのは、一つは取材に行くことの大切さと大変さ。もう一つは、そこで分けてもらった”記憶”を持ち帰った作家の成長。作家はみんなそれぞれ個性豊かだから、出てくる戯曲を読むと「よくもまあ、これだけ違うねえ」といつも思う。同じ人の話を聞いても、自分の心のどこかが動く瞬間というか、セントン

寺田 うね。



取材・文 重岡美千代